

南国市で人工知能の開発！



(株)南国オフィスパークセンター

皆さん、「南国オフィスパーク」をご存じですか。

道の駅南国風良里の交差点を東に入り、北に行った所にある、広々とした蛸が丘の企業団地が南国オフィスパークです。ここは、自然豊かな先端分野の情報オフィス群として、独立行政法人中小企業基盤整備機構により造成された総面積 20.2 ha の準工業地域で、13 の企業社屋が建っています。

そのオフィスパークのほぼ中央にある建物が、橋詰南国市長が代表取締役社長を務める第3セクター(株)南国オフィスパークセンターです。建物内の賃貸オフィス及び会議室などの利便施設を管理・運営すると共に、オフィスパーク内企業の交流促進や業務支援、そして情報提携などの産業業務機能を支援しています。実際、いくつもの企業が賃貸オフィスに入居しています。

今年8月、「高知県コンテンツ企業誘致制度」第1号の指定を受けた企業が、この3階の一室で操業を開始しました。「人工知能開発事業者向けコンテンツ提供事業」を行う(株)datanetです。

「人工知能(AI)」と聞いて私の頭に浮かぶのは、映画の「HAL 9000」や「スカイネット」等々。AIやコンテンツってなに？ そもそもそのような最先端の企業がなぜ南国市へ来ることになったのでしょうか。こんな田舎？ で十分な仕事ができるのでしょうか。等々、多くの疑問を感じ、また興味が湧きました。

そこで、この企業の親会社であり、同じくオフィスパークセンターに入居して人工知能(AI)の研究開発を行っているITベンチャー企業(株)Nextremerを見学・取材させて頂き、お話を伺いました。

取材の前に

テレビや新聞で、人工知能を搭載したロボットがクイズ大会で優勝したり、囲碁世界チャンピオンに初めて勝利したと報道されていました。家の中でも足元をお掃除ロボットが動いていたり、携帯電話はいつの間にかスマートフォンに変わり日常生活の中では欠かせないものになっています。便利で使いやすいこれらの機器には、きっと人工知能に近い機能が組み込まれているのではないかと勝手に思っていました。

いざ、人工知能の開発現場へ

今回、南国市を拠点にした人工知能関連ベンチャー企業がどんな研究開発をしているのか、テレビアニメの「鉄腕アトム」に似たものを想像しながら取材に向かいました。

蛸が丘の南国オフィスパークセンターは、鉄筋コンクリート3階建て、各階にはおよそ10部屋あり、ほとんどの部屋が入居企業で埋まっています。3階西端の2部屋を使った目的地まで南側の廊下を歩きました。

【テレビ会議】

案内されて入った部屋には、大きな植物の鉢が2つ。入ってすぐの場所に、会議用の机と椅子、その正面には大画面のテレビがあります。ボタンを押すと、東京の本社やイン



り、連絡やテレビ会議ができるということです。高知と東京、インドがすぐ近くに感じられます。

【若いスタッフ】

机は4つまたは6つをひとかたまりにして、男性12人、女性

3人が全員パソコンの画面を見ながら仕事をしています。時代の先端をいくITベンチャー企業だけあって、若いスタッフの方ばかりです。ここは、人工知能関連の研究開発を進めているところです。部屋の片隅には、ダーツとスナック菓子やバランスボール等があります。若くても、適度に休んで働かないと・・・。

